

「安倍9条改憲NO！ 憲法を生かす 3000万署名」にご協力下さい

2018年1月20日

奈良宗教者九条の会

代表 工藤良任

念仏者九条の会・奈良

代表 藤本信隆

憲法と日本の進路に大きな影響を与える総選挙が終わり、自民党、公明党、希望の党、維新の会合わせて改憲勢力が374議席、全議席の8割を超えた一方、安倍改憲に反対する側は、野党分断の攻撃を乗り越え、立憲民主党、共産党、社民党、無所属を合わせて90議席前後を獲得しました。

改憲諸党のなかでも公明党が9条改憲には消極的な態度を示し、維新の会が教育無償化に重点を置くなど、改憲原案取りまとめまでには紆余曲折はあるでしょう。しかしそれは、9条の「改正」に対する国民の警戒心への対策にほかならず、改憲勢力の本命はあくまで9条改憲です。しかも安倍首相は「スケジュールありきではない」といいながら、多数の議席を背景に、あくまで18年通常国会での改憲発議、秋の国民投票実施に照準を合わせています。

一方、9条に自衛隊を書き込むことについては、選挙後の世論調査でも、設問の仕方に多少の違いはあるにせよ調査媒体によってまったく反対の結果が出ている（「朝日」賛成36%、反対45%、「読売」同49%、39%）ように、安倍9条改憲の危険性が十分に伝わっているとはいえない状況があります。

私たち宗教者の先人は、先のアジア・太平洋戦争について、「勃発する以前に、身命を賭しても、平和護持の運動を起こし、宗教の本領発揮に務むべきであった」と戦争に加担したことを懺悔（ざんげ）し、憲法9条を「人類史上類いなき崇高なる理想」とした上で、「平和国家の建設に挺身（ていしん）せん」と誓いました。殺し殺される事態は、命の尊厳を説く私たち宗教者の立場に反するものです。安倍政権のもとで、戦時体制に入り、信教の自由を奪われた時代を繰り返すことになるのでは、と危惧されます。私たち各宗教の教えを守る上からも、安倍9条改憲に強く反対します。

（宗教者九条の和・緊急声明）

臨済宗相国派管長 有馬頼底師、小説家 瀬戸内寂聴さんなど著名人19氏がよびかけた「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が3000万人署名の取り組みがいつその緊急性を増しています。通常国会での9条改憲発議を阻むために署名に組みすすめることにしております。このため、3000万署名運動を成功させ、改憲勢力が改憲を発議できない状況を作り出そうではありませんか。万一発議が強行された場合にも国民投票でそれを否決する力をつくろうではありませんか。

記

みなさまのご署名はもとより、有縁の皆さまに3000万署名を拡げてください。